



足の変形

「足の変形」とは、一般的な足の形から逸脱したものを言います。足が変形してしまう理由は様々です。

人によっては生まれつきの足の形が理想的といえない場合があります。糖尿病患者の場合、足の変形に関連した要素としては、足の感覚の変化や怪我などによって生じる関節のこわばりや筋肉の萎縮、関節の圧潰(シャルコー関節症)などがあります。その他の要素としては手術、切断、骨の炎症、足の形に合わない靴などが原因で足が変形することがあります。

糖尿病患者における足の変形の原因:

- 遺伝
- 関節のこわばり
- 筋肉の萎縮
- シャルコー関節症
- 手術
- 足の切断
- 骨の炎症
- 適切ではない靴や矯正器具の使用

足の変形によって、足に傷ができるリスクが生じることがあります。変形によって足の特定部位にかかる圧力が強くなることもあり、これによって皮膚が破れることがあるからです。足の感覚がない場合(これを神経障害といいます)は特に足に傷ができる危険性が高くなります。

足が変形している場合、足にきちんと合った靴を探すのが難しいことがあります。きちんとフィッティングをしていない靴を選ぶと、擦れたり締め付けたりすることで足に怪我をしたり傷ができていたりすることがあります。

足の感覚がなくなったり、足が変形したりした場合は、専門家にきちんと足に合った靴をフィッティングしてもらうか、矯正器具を選んでもらうことが重要です。足を守るため、靴は家の中でもずっと履き続ける習慣を付けましょう。また、靴を履く前に必ず靴の中に異物(小石など)がないことを確認しましょう。

変形の原因によらず、足のケアの専門家の診察を受けてきちんとフィッティングした靴で自分の足を守り、またこれ以上怪我をしないように気を付けましょう。